

# たぐすい

TAKUSUI  
No. 755

9  
September.2019

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



鷺の巣展望台から金角湾 (ウラジオストク市)

## 漁港漁場大会

## 兵庫県・ハバロフスク地方友好提携50周年記念事業

《今月の海上安全標語》～ 守るのは自分自身 ～

ライフジャケットを着用していますよね。

もし、着用していない方がおられたら、自分のため、家族のため、仲間のために着用して下さい。

**あなただけ 自分の命を 守るのは!!** では、今月も安全操業で!

# ようそろ

「ずっと真つ直ぐに」  
(ようそろとは航海用語で「直しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる)

## 右往左往

一般財団法人兵庫県水産振興基金 主任 岡田 早生



4月より兵庫県漁業協同組合連合会より出向してきました岡田と申します。2013年に入会してから、たくさん先輩方や漁師さん、関係団体の方にお世話になり、今年で社会人7年目となります。様々な部署で経験もさせていただき、現在振興基金で新たな経験を積ませてもらっています。よろしくお願ひいたします。

私は、初めてご飯をご一緒する方々から「左利きでしたっけ？」という質問をよく受けます。一応ですが左右両利きです。お箸とボール投げと包丁と絵を描く等、主に左利きなのですが、字を書くのと、はさみや札を数える等事務作業は右手の方が多いです。

これが原因なのか、ただおかしいだけなのか、右行つて、左行つてと言われたときに認識に時間がかかったり、明らかに間違えていることがあります。例えば「スイカ割りの「左左！」の声に、「左つてどっち？」と考えたあげく逆を選ぶのです。すいか割りはまだ笑えるのですが、ご迷惑おかけし笑えないことも多々あります。教習所教官の「次左」の指示を、左つてどっち？と考えて慌てて右折しようとして教官用ブレーキをぐつと踏まれる経験を何度か。お互い目が点になります。左の建物にトイレがありますと案内されたのに、右の建物に入つてトイレを永遠に探しています。写真を撮るときに、もうちょっと右！の右がどちらか考えている間にシャッターを押されます。視力検査は、もう考えるのがめんどくさくなって、Cの向きをもう指で答えます。仕事で、漁師さんが買ったロープをたまたま逆回りにしはり、「姉ちゃんは、ぎつちよ<sup>※</sup>やからおもしろい結び方するわ思つてたら、たまに正解のときもあるわ」と笑われたこともあり。私日によって使う手が違うのか」と言われて初めてわかりました。(※左利きのこと)

30年近く生きていますが、共感いただけただけなのは今までお一人だけでした。もう治すこともできず、悩みの1つとなっています。

ただ今更悩んでも仕方ないので、ちょっとプラスになつてることを考えました。

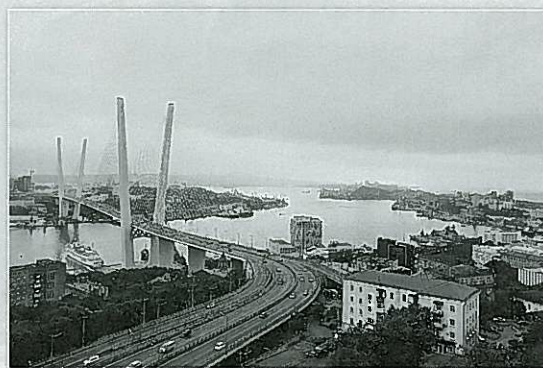
- 1、どちらかの手を怪我した時に楽。
  - 2、両手で二つの作業ができる。電卓を左手でたいて右で書き込める、消しゴムで消しながら字を書くなど。(役立つかはわかりません。)
  - 3、右脳・左脳を常に使っているので認知症予防。
- デメリットしかないと思つていましたが、メリットも多少あるかと。長い人生上手に付き合つていくしかないと思つていきます。

振興基金の右・左は現在勉強中です。まだわからないことが多いですが、積極的にいろいろ挑戦したいと思つていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## CONTENTS

No.755 September. 2019

- 2 ようそろ
- 3 兵庫県漁港漁場協会 通常総会・漁港漁場大会  
但馬地区沖合漁業解禁
- 4 明石浦魚祭り  
淡路市水産まつり
- 5 兵庫県・ハバロフスク地方友好提携50周年記念事業
- 7 ノリ養殖研究発表  
香美町とと活隊 「とと川柳」と  
「オリジナルキャラクターの名前」を大募集
- 8 神戸海上保安部からのお知らせ
- 9 兵庫 JCC 通信
- 10 旬に想う  
大輪田塾だより



### 表紙の言葉

「鷺の巣展望台から金角湾」(ウラジオストク市)

兵庫県とロシア ハバロフスク地方友好提携50周年式典参加のためロシア入りし、近代化が進むウラジオストク市を訪れました。

市内中心部から近く、192mの丘の上にある鷺の巣展望台はウラジオストク市を訪れた人が必ず足を運ぶ観光スポットとなっており、2012年に完成した金角湾をまたぐ金角湾大橋が出来たことで街の景観が現代的になったそうです。

トイレや歩道などインフラ整備などの課題がありそうですが、観光都市として発展するのではと思えた街でした。

# 通常総会・漁港漁場大会を開催

～兵庫県漁港漁場協会～



は、瀬戸内海を水産資源の豊かな海へ再生するため、下水処理場からの放流水中の全窒素濃度を引き上げる季節別運転の、本格運用を開始する取り組みを行うなど、貧栄養化からの早期回復を期待しているところであり、漁港漁場という大切な基盤整備を着実に促進するために、我々漁業関係者が一致団結し、関係団体とも連携して予算確保に全力で取り組む必要がある。また、年々変化する漁港漁場環境に対応できる情報の提供や研修にも力を注いでいきたい」と挨拶がありました。

その後、JF坊勢岡田武夫組合長が議長に選出され、事業報告や事業計画など、予定された議案が原案通り可決され、続いて任期満了に伴う役員改選が行われ、全役員が再任されました。そして、令和元年度第2回役員会を開催し、役員互選により、会長、副会長が再任されました。

兵庫県漁港漁場協会（会長・浜上勇人香美町長）は、8月27日（火）、新温泉町において、「第68回兵庫県漁港漁場協会通常総会」及び「第59回兵庫県漁港漁場大会」を開催しました。

通常総会の開催にあたり、浜上会長から、「漁場環境において、兵庫県では、瀬戸内海を水産資源の豊かな海へ再生するため、下水処理場からの放流水中の全窒素濃度を引き上げる季節別運転の、本格運用を開始する取り組みを行うなど、貧栄養化からの早期回復を期待しているところであり、漁港漁場という大切な基盤整備を着実に促進するために、我々漁業関係者が一致団結し、関係団体とも連携して予算確保に全力で取り組む必要がある。また、年々変化する漁港漁場環境に対応できる情報の提供や研修にも力を注いでいきたい」と挨拶がありました。

その後、JF坊勢岡田武夫組合長が議長に選出され、事業報告や事業計画など、予定された議案が原案通り可決され、続いて任期満了に伴う役員改選が行われ、全役員が再任されました。そして、令和元年度第2回役員会を開催し、役員互選により、会長、副会長が再任されました。

引き続き、兵庫県漁港漁場大会が、県下各地から164名の参加を得て開催されました。来賓の寺尾俊弘兵庫県農政環境部長から「活力ある漁港・漁場・漁村づくりに取り組んでいく」との心強い祝辞や、公益社団法人全国漁港漁場協会会長（代理・影山智将顧問）のご挨拶があり、興津武秀南あわじ市水産振興課長が議長に、JF南あわじ小磯富男組合長が副議長に選出され、山口隆喜神戸市農水産課長から、「潤いと活力ある漁港・漁場・漁村づくりに邁進する」との力強い大会宣言のあと、次の議案が満場一致で承認され、JF但馬村瀬晴好組合長が決議文を読み上げました。

- ・漁港漁場整備長期計画の推進と令和2年度予算の確保
- ・漁港海岸事業の促進と令和2年度予算の確保
- ・豊かな海の再生
- ・県の漁港漁場整備等に対する施策の強化

今後、これら決議の実現に向けて、公益社団法人全国漁港漁場協会や他府県の漁港漁場協会等と連携して、農林水産省等の関係機関、国会議員、県議会議員、県当局に働きかけていくこととしました。

その後開催された情報交換会では、兵庫県漁港漁場協会副会長のJF兵庫漁連田沼政男会長の挨拶と西村銀三新温泉町長の乾杯に始まり、JF浜坂川越一男組合長の中締めまで、活発な意見交換など盛況のうちに終わりました。



但馬の各浜は一層活気づきました

## 但馬地区の沖合底びき網漁業・ベニズワイガニのカニカゴ漁が解禁

～9月1日に一斉解禁～

9月1日（日）から但馬の主要漁業である沖合底びき網漁業とベニズワイガニカゴ漁業が解禁となりました。

沖合底びき網漁業の初セリ

は、9月2日（月）に但馬の各港（津居山・柴山・香住・浜坂・諸寄）で行われ、沖合底びき網で獲られたアカカレイ、ハタハタなどが次々に水揚げされるなか、浜は活気に包まれました。

沖合底びき網漁では9月～10月はカレイ類・ハタハタ・ノドグロなどを中心に漁が行われ、11

月6日（水）に解禁されるズワイガニ、3月～4月のホタルイカなど様々な魚種を対象に来年5月31日（日）まで漁が行われます。

また、9月4日（水）には香住西港でベニズワイガニの初セリが行われ、セリ担当職員の威勢の良い声のもと、ベニズワイガニが次々にセリ落とされていきます。

いよいよ始まった今漁期の操業安全と豊漁を祈念いたします。

## 明石浦魚祭り開催!

8月25日(日)、JF明石浦(戎本 裕明組合長)は、地元のをさらに豊かにする取り組みに触れてもらい、海や魚に触れて楽しむ「明石浦魚(あかしうらうお)祭り」を今回初めて開催しました。

普段はセリを待つ活魚が入る生簀(通称プール)で魚と一緒に水遊び体験や、鮮魚をはじめタコやアナゴの天ぶらを販売する飲食エリア、海の生き物の生態系などを学ぶコーナーなど多彩なブースのほか、船に乗って、明石海峡の漁場調査を体験するイベントも行われました。

学習ブースでは、食物連鎖を支えるプランクトンの餌となるリンや窒素といった栄養まで少なくなったこ



学習ブースの資料



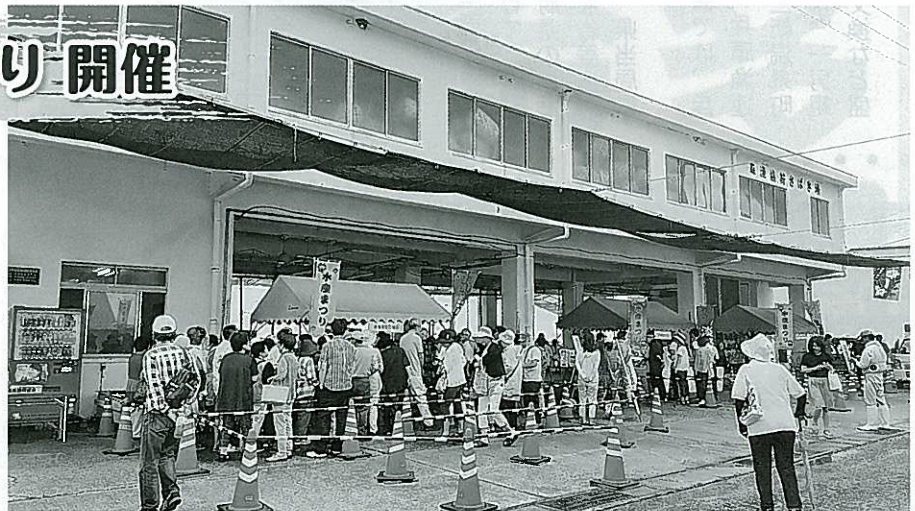
船で漁場調査へ



とで漁獲量が減少し、ノリの色落ちが頻発するなど、海の豊かさが失われてきた経緯や豊かな海づくりを取り戻すための様々な取り組みについての説明や、海の生き物の生態系プラミッド図や魚が食卓に並ぶまでの流れなどを紹介するパネルが並びました。

参加した親子ら約2500人は、魚に触ったり食べたり学んだり、明石浦の海を満喫しました。

## 淡路市水産まつり開催



今年も、淡路島近海でとれた新鮮な魚介類を販売する「淡路市水産まつり」が8月31日(土)、JF森 荷捌き所(淡路市久留麻)で開かれました。

同祭りは漁業振興を図るため、平成27年から淡路市内のJF等で構成される淡路市漁業振興協議会(社領 弘会長・JF一宮町)が主催し、魚離れを少



振る舞いもあつという間になりました

しでも止め、地元の魚をもっと市民に知ってもらおうとの思いから、市内9漁協が会場を持ち回りで開いています。

各ブースには、この日朝に水揚げされたばかりのタイや太刀魚などの鮮魚がずらりと並び、JFごとにお揃いのTシャツを着た漁業者、職員らが威勢よく対応しました。ハモの天ぶらなどの加工品の販売のほか、前日からJF森 女性部員達が丹精込めて準備したたこ飯やハモ汁(各300食)の振る舞いもあり、多くの来場者が訪れ盛況のうちには終了しました。

(文:淡路市漁業振興協議会)

# ハバロフスク友好提携50周年記念 兵庫県民交流団へ参加 水産交流団9名 ハバロフスク・ウラジオストクを訪問



日本に一番近いヨーロッパと呼ばれるロシア極東地域。その中心地のハバロフスク地区と兵庫県との友好提携が結ばれて、今年で50年の節目を迎えました。このハバロフスクは2000年にロシアで「連邦管区」という枠組みが導入され、その一環として極東連邦管区が創設されましたが、それにより極東連邦管区を中心都市とされ「ロシア極東の首都」となった地区です。

(公財)兵庫県国際交流協会(高井芳朗理事長)は、人々との交流の輪を拡げるため「ハバロフスク友好提携50周年記念兵庫県民交流団」を募集し、漁業界から9名の水産交流団を編成し

参加しました。同県民交流団(総勢34名・東根 壽団長)は、8月17日(土)〜22日(木)の間、ハバロフスク市ならびにウラジオストク市を訪れ、友好記念行事への参加や、市民との草の根交流などを行いました。

17日に関西国際空港を発った一行は直行便でウラジオストク国際空港へ到着し、入国審査を経てウラジオストク市へ入りました。このウラジオストク地区は、軍港があることからソ連時代には長く外国人に門戸が閉ざされており、ロシア人であっても簡単に訪問することさえできない地区でした。しかし、空路や航路が整備され、観光など周辺諸国からの交流が盛んになり、経済的にハバロフスクを凌ぐようになり

ました。そこでロシアのプーチン大統領が2018年12月13日に署名した大統領令により、極東連邦管区を中心都市が、ハバロフスクからウラジオストクに移転するいわゆる「遷都」が行われたそうです。

18日と19日の午前中に、鷲ノ巣展望台やアンドレイ教会、潜水艦C-56博物館、シベリア鉄道終着駅のウラ

ジオストク駅、海軍百貨店・ Gum百貨店・カリナモールなど主だった市内観光地の視察を行いました。どの観光地も中国人・韓国人が多く賑わっていました。特に2019年3月にオープンしたばかりの極東ロシア最大のショッピングモール&スーパーマーケットのカリナモールは、洋服屋、キッズの遊び場、フードコート&レストラン、巨大スーパーマーケットなど様々な店舗があり、さながら日本の某モールの様でした。そしてなによりトイレ(無料)がキレイ(笑)。

19日の午後からは、ロシア国内線でハバロフスク市へ入りました。ホテルにチェックイン後、夜は兵庫県 井戸敏三知事を代表とする兵庫県代表団との交流会で、翌日に控えた友好提携50周年式典に向けて弾みをつけるべく大いに盛り上がりました。

20日は、ハバロフスク郊外の日本人墓地を訪れ、井戸知事・兵庫県民交流団 東根団長らが献花を行い、シベリア抑留により

20日は、ハバロフスク郊外の日本人墓地を訪れ、井戸知事・兵庫県民交流団 東根団長らが献花を行い、シベリア抑留により



鷲ノ巣展望台からの景色

20日は、ハバロフスク郊外の日本人墓地を訪れ、井戸知事・兵庫県民交流団 東根団長らが献花を行い、シベリア抑留により



ウスペンスキー教会



献花する東根団長

日本に帰還することを果たせずシベリアで望郷の念にかられながら亡くなられた方々に心より深く哀悼の意を捧げました。その後、ウスペンスキー教会・レーニン広場などを視察し、市内のレストランで日本語学習者とのラン



井戸知事とフルガル知事 (中央左)

手交流会、ハバロフスク日本センター視察を行いました。夜に行われた、友好提携50周年記念レセプションにはロシア側からはフルガル知事をはじめとする関係者約30名と兵庫県からは井戸知事をはじめ県議員訪問団・ビジネスミッション団・町村会訪問団・兵庫県民交流団の約70名が参加し、50年に及ぶ友好関係の継続と発展を願い、互いの特産品等のプレゼント交換をおこなうなど交流を深めつつ、盛会のうちに幕を閉じました。

21日午前中は、水産交流団は別行動をとり視察を行いました。まず、市郊外にある第二次世界大戦後、ソ連において死亡した人々への哀悼と世界平和を祈念し、日本政府や日本企業・個人の寄付金により慰霊碑が建立・整備された平和慰霊公苑を見学しました。公苑は1995年9月12日に建立され、ハバロフスク市によって管理されており、旧兵庫4区の衆議院議員

故戸井田三郎議員が書かれたシベリア戦没者慰霊碑もありました。次に、サーモン・ニシンを中心に加工・販売を行っている株式会社イニヤの水産加工工場を訪れ、サーモンフィレ・スモークサーモンの温燻などの工程を見学しました。

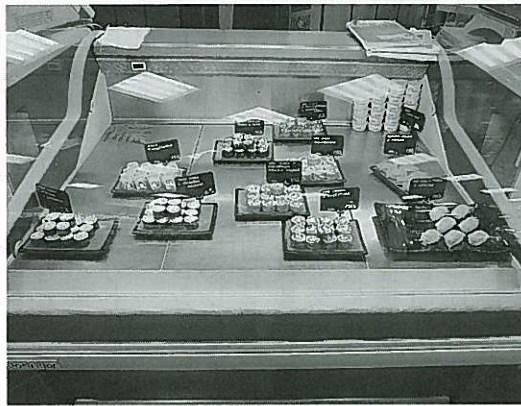


サーモンフィレ加工・フィレ機械は日本製

加工場内従業員もマスク・帽子・手袋を着用し衛生管理が行われており、私達も専用の服・ネット帽・ビニールの靴カバーを履くことを求められました。原料魚はオホーツク海産で、海路でウラジオストックへ運ばれ、そこから陸路でハバロフスクに運ばれ加工されているようで、ウラジオストックなど沿海地域で加工の方が効率良さそうですが、ハバロフスクは物流の要所であるため、この地で加工する体制となっていました。

次に、大型ショッピングセンターHKシティの食料品売り場を見学しました。売り場入口にはゲートがあり警備

員が配置され、大型カバンは無料ロッカーに預ける必要があるなどセキュリティが厳しく、買い物を終えたあとの買い物を終えたあとの厳しいチェックがありました。店内はあらゆる食料品が揃い、キャビアといった高級食材や寿司も販売されていました。



寿司はロール系が多い

午後は、県交流団と合流しアムール川遊覧とバルチカビール工場を見学しました。

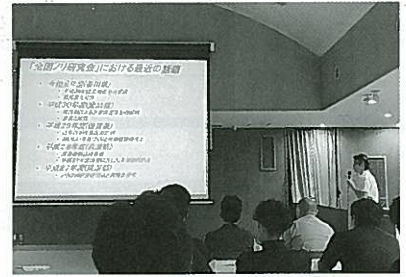
アムール川はシベリア南東部と中国との国境を流れる全長4,440kmの大河です。川は訪問前に降り続いた雨でいつもより3m増水しているようで、川沿いの小屋が水没しているところもありました。冬には川が完全に凍結するように凍結時には車でも渡れるそうで

す。遊覧後はビール工場を見学しました。ロシアといえばウォッカをイメージするとおもいますが、ロシアは世界有数のビール消費国だそうで日本のアサヒスーパードライやデンマークのカールスバーグともライセンス提携され、ロシア国内で生産されているようです。ロシア産ビールが造られるようになった歴史の説明から始まり麦芽を煮込んで麦汁をつくり、ホップを加え香りと苦みを引き出し、麦汁に酵母を加えて発酵させる工程などを1時間かけて見学しました。22日は朝から帰国の途に就き、同日夕方には成田経由で伊丹空港へ到着しました。行程の中で日本語を学ぶロシアの方との交流がもたれたほか、両市内とも走る車の8割が右ハンドルの日本車で故障が少ないことから日本の技術力を非常に尊敬されていることと聞き、今後兵庫県との友好を深めていくことが出来るのではないかと考えたロシア訪問となりました。



ビール工場にて、岡田組合長にそっくり

# ノリ養殖について様々な角度で研修 ～2019年 のり養殖技術研修会～



8月28日(水) 明石市の兵庫県立水産技術総合センターで、JF兵庫漁連(田沼 政男会長) 主催による「2019年のり養殖技術研修会」が開催され、ノリ生産者・関係者ら約100名が参加しました。この研修会は、毎年この時期にノリ養殖の持続的発展のために必要な知識技能を習得し、ノリ養殖業の経営安定に資することを目的に行われ、今年も6課題について発表がありました(別表参照)。

この日行われた研究発表では、兵庫の研究所より養殖技術や漁場環境の報告と平成30年度の育苗期や本張り期の重点事項等について発表されました。兵庫県立水産技術センター 谷田 圭亮(兵庫県立水産技術センター 主席研究員)より、全国のノリ養殖の問題点として、生物による食害や漁場の栄養塩低下や色落ち原因プランクトンの発生について詳しく話されました。

また、松谷海苔株式会社 松谷 晃社長は、国産ノリのコンビニエンスストア使用状況やノリを巻かないおにぎりが増えている状況、世界のノリ生産量と消費量について、世界のノリ市場などを話され、「兵庫県が30年後も15億枚の生産体制を維持して欲しい」と日本のノリは消えてほしい。」と兵庫県ノリ生産にエールを送られました。

いずれの研究発表、講演、報告も関心が高く、会場では熱心に聞き入る参加者の姿が見られました。



講演される松谷社長

題目	講師・発表者
米養塩の基礎知識と近年の漁場環境について (研究発表)	竹迫 史裕 (JF兵庫漁連 兵庫のり研究所 主任)
酸処理について～基礎編～ (講演)	井上 義雄 (第一製網(株) 研究開発部 部長)
昨年度漁期から見た今後の対策 (研究発表)	川崎 周作 (JF兵庫漁連 兵庫のり研究所 所長)
ノリ養殖をとりまく問題点～全国の事例とその対策～ (研究発表)	谷田 圭亮 (兵庫県立水産技術センター 主席研究員)
世界の海苔の消費 流通動向について (講演)	松谷 晃 (松谷海苔株式会社 代表取締役社長)
のり養殖時の安全対策について (講演)	月川 智史 (神戸海上保安部航行安全課 地域海難防止対策官)

(発表順：敬称略)

## 香美町とと活隊「とと川柳」と「オリジナルキャラクターの名前」を大募集!

水産業の発展と魚食普及を目的に、全国で初めてとなる「魚食の普及を推進する条例」を制定した美方郡香美町の香美町とと活隊(濱上栄作隊長)は、10月を香美町魚食普及月間とし、「とと川柳」を募集しています。テーマは「さかな」。美味しい魚や面白い魚など、さまざまな観点からみた作品を募集しています。また、同隊のオリジナルキャラクターの名前の募集も行っています。

各賞には豪華賞品が準備されています。お1人様の応募数制限もありませんので、ドンドンご応募ください。

- ◎とと活大賞 「川柳部門」 全作品の中から1名  
5万円相当の松葉ガニ・セコガニのセット
- ◎名付け親で賞 「名付け親部門」全作品の中から1名(採用の名前が複数の場合は抽選)2万円相当の香住ガニ
- ◇応募締切 令和元年10月31日消印有効
- ◇応募方法 とと活隊SNSにメッセージやタイムライン投稿など  
SNSの場合は  
ハッシュタグ #とと川柳2019 #とと活隊名付け親  
郵送・FAX
- ◇応募先、お問合せ先  
〒669-6544 兵庫県美方郡香美町香住区香住1854  
香住水産加工業協同組合 とと活隊事務局  
TEL 0796-36-1103 FAX 0796-36-3360  
(月～金 9:00～17:00 土・日・祝日を除く)
- ◇結果発表 11月20日 香美町とと活隊Facebookで発表

神戸海上保安部からのお知らせ

過去5年最多ペース



衝突事故多発  
警報発令中

写真はイメージです

今年8月から9月の1ヶ月の間に、神戸海上保安部管内において、船舶同士の衝突事故が6隻発生しました。9月現在、衝突事故件数が過去5年で最も多くなっています。

発生した衝突事故では、当時

- ・網揚げ作業を行っていた
- ・漁の準備作業を行っていた
- ・周りを全く見ていなかった

など、見張りを行わず漫然と航行させた結果による事故となっています。

事故が発生すれば、財産の損害だけではなく、刑事・民事でもその責任を問われることになります。

今一度、「船員の常務」として「見張りの徹底」を！

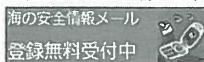
## 「自己救命策3つの基本」

1 救命胴衣の常時着用 2 連絡手段の確保 3 海の緊急通報118番

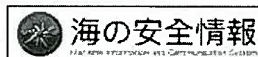


神戸海上保安部

海の安全情報メール配信サービス →  
(空メールを送信して登録して下さい)



海の安全情報スマートフォン用サイト →  
(こちらから登録して下さい)





## JA兵庫六甲 農地利用の活性化と 地域農業への理解を通じて 都市農業を守る

農村部から都市部までをエリアとするJA兵庫六甲では、地域によって大きく異なる特性、課題に合わせた戦略のもと、活動しています。都市部にあたる阪神地域では、生産緑地における農的活用の活性化と消費者の農業への理解促進を基軸に、都市農地の保全に取り組んでいます。

### ・都市部の生産者をサポート

高齢化や家族構成の変化などによって農地を手放す組合員がいるため、JAでは、営農相談員による相談活動を軸にオペレーター組織（JAを通じて農作業を受託する組合員組織）の立ち上げや運営等を行い、農地を保全するためのサポートを行っています。JAの子会社である㈱ジェイエイファーム六甲でも専門のオペレーターが定植や防除・収穫等の作業を代行しています。

### ・消費者の理解を得る活動

「田畑に入ったことがない」「地元の農産物の味を知らない」という消費者は多くいます。そこで、駅前の支店で開催するマルシェや収穫体験ツアーを企画し、地元産の農畜産物のおいしさを知り、地域農業への理解を深めるきっかけを作っています。准組合員が地域の農業を応援する活動として、地元産農産物の共同購入や、食農教育活動等の一部の地域で行っています。

### ・今後の取り組み

JAでは、都市部の農業の衰退を食い止め、組合員を支援することを重要な使命の一つとしています。都市農業の振興を通じて、将来JAの基盤となる組合員へ農地が継承されるよう、今後も取り組みを強化します。



㈱ジェイエイファーム六甲でのオペレーター組織による農作業

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

## ピースアクション2019【第1弾】 ～『舞鶴引揚記念館』を訪ねて～ 開催報告

開催日時：2019年8月21日（水） 7：40～17：00  
訪問場所：舞鶴引揚記念館、赤れんが博物館  
参加人数：39名

兵庫県生協連では、平和の大切さを考え確かめ合う場として「ピースアクション」の取り組みを行っています。

今回訪れた「舞鶴引揚記念館」は、1988年（昭和63年）に建設されました。舞鶴は戦後13年間にわたり引揚者を迎え入れており、その引き揚げや抑留の史実を後世に継承し、平和の尊さを広く発信する施設として建設されたとのことでした。

はじめに、シアターにて「引き揚げ」について学びました。そして館内を見学し、語り部の話を聞いたり、抑留場所であったシベリアでの生活風景やシベリアで書かれた日誌などを見たりと、引揚者たちの抑留時の過酷な生活を知り、参加者は驚いていました。

続いて訪れた「赤れんが博物館」は、1903年（明治36年）に、旧舞鶴海軍の魚雷倉庫として建設されました。館内には「歴史を証言するれんが」として、「アウシュビッツ＝ビルケナウ強制収容所」のれんがや、「原爆ドーム」のれんがを展示しており、参加者は、れんがの歴史を学ぶとともに、世界の平和について思いを馳せていました。

参加者からは、「子ども（孫）とともに戦争について学べてよかった。戦争のことを後世に伝えていきたい」「以前から平和について興味はあったが、行動に移すのは初めて。平和を考えるきっかけになりました」等の感想がありました。



<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



# 旬に想う

写真と文遊方子



## グロテスクだが美味なり

◆海胆(ウニ)は日本近海に約百八十種が生息している。食べられるのはムラサキウニやエゾバフンウニ等で意外に少ない。漢字では《雲丹》とも書く。棘に覆われた殻の内側、オレンジ色の生殖巣五個が美しい食材になる。棘と棘の間に沢山の管足を持つっており、先端にある吸盤で岩等に附着して、流れの速い所でも張りつき流されはしない。長い棘で外敵から身を守り、管足を操って自由に移動している。海胆も海鼠(ナマコ)も海鞘(ホヤ)も、グロテスクで奇妙な生き物だから、最初に口にしたら人は勇気が要っただろうと思う。実に怪異でグロテスク。

◆海鼠は海で穫れる朝鮮人参との異名がある。その薬効は大いに優れた物で、タンパク質・カルシウムに富む。海藻と同じく多量のヨードを含んでいるが、動物性食品では珍しくアルカリ性という。コンドロイチンを多量に含むことから動脈硬化の予防になると注目されている。日本人は昔からナマコの善さを知っていたようで、平安時代の貴族のメニューに内蔵の塩漬「このわた」や煮て干した「いりこ」の名前が出ていたとか。関東は青ナマコ、関西では赤ナマコが珍重されている。どちらも外観は大変にグロテスクで不気味な様相なのだ。

◆漱石も『吾輩ハ猫デ：』に海鼠を初めて食した人は「胆力において敬すべき」と書いている。外観は醜悪だが冬至の頃に、三杯酢で頂くと共に旨い。歯応え頼もしく磯の香が楽しめる。ナマコの表面に手の脂がつくと、表皮がとろけるため調理の際は絶対触らぬ事。ぬめりを取る時は、塩を振り箸を被せて左右に振る「振りナマコ」を行う。子規の句「小石にも魚にもならず海鼠哉」とある。海鞘(ホヤ)は海鼠が萎びたように見えるから「老海鼠」とも書く。大人の握りこぶし程の卵形だ。赤褐色の部厚い皮に覆われ突起があり、岩礁にへばり着いてプラントンを食べる。地球上では古い生き物で食品としての歴史も古い。

◆海鞘を初めて味わった。部厚い皮をむいて内蔵を除き、筋肉を薄切りにする。胡瓜と相性が良く酢の物にした。強烈な磯の香りが口一杯に広がり、しこしこ舌触りは、海鼠とアワビを混ぜた感じ。少しホロ苦くて美味しい。海鞘の幼生は球状でオタマジャクシのように尾があるという。海中を自由に泳いでいるそうだが、成長すると尾は胴体に吸収されて無くなる。胴体に附着に適する器官が出来る出水管が出来る。気仙沼の海鞘は身が厚くて上等。天下にいう三珍とは「肥前野母のカラスミ・三河のキノワタ・越前のウニ」どれも、よくぞ食品にしたりという存在である。

## 大輪田塾だより

### 東京現地視察研修開催

本年度の大輪田塾現地視察研修は8月6(火)〜7日(水)に、塾生をはじめ計15名の参加で行われ、東京豊洲市場とJF全漁連などを訪れました。



豊洲市場マグロのセリ場

まだまだ賑わいを感じました。

7日は、JF全漁連を訪れ、漁政部の貴家氏、涌井氏より全漁連の概要等について説明を受けました。また、田中要範漁政部長より、改正漁業法の運用に係る重点要望や漁業が成長産業化と持続可能となるための様々な施策を実行するための政策活動についての話を聞きました。質疑応答では、塾生は積極的に自分の浜の現状や要望を伝えました。

今回の視察で、新旧の市場を見学し、衛生管理や食の安全について考えるとともに、全国の漁協のトップであるJF全漁連が国と交渉し漁民のため活動を行っている事など、幅広く知識を深めました。



全漁連